

アラウンド GOGO 55



腹痛

二通 論

十月には杖の力を借りるほどであった。それでもなお授業を続けた。そこにあるのは、仕事を途中で投げ出さないというプロ精神だ。

二人の冥福を祈るとともに、改めて強い意志をもたなくてはと思った。腹を痛がっている場合ではないのだ。シャキッとせんかい！と自分を怒鳴る五十六歳の十一月。

(北海道支部事務局長・石狩市立花川南中学校)

教育分野だとするなら、阿部

氏は就学前・乳幼児分野を押しさえるというところで、お互い切磋琢磨してきた。

とりわけ一九八三年支部発行の『北海道障害者白書第一集——障害乳幼児編——』は阿

部氏の心血注いだ労作であり、その後の北海道の流れをつくるものとなった。

私も負けじとその翌年から年六回の40頁建支部会報発行という荒行に挑戦し、言うま

でもないが北海道を発達保障の大地にするべく大車輪状態になった。

阿部氏は行政マンから大学

教授へと転進したが、人材養成等やりたいことがまだまだあったはずだ。

もう一人は進藤省司氏。四

十歳。私の同僚だ。この九月、北海道新聞紙上で「「がん、7月まで」と宣告された。奇跡信じて」、「命ある限り教壇へ」と大きく報道され、事

実、二学期になってから職場復帰を果たし、生徒たちに生命の強さ、精神の強さを見せていた。バレーボールの指導で顕著な業績を残した屈強なスポーマンであったが、

*「アラウンド55(ゴーゴー)」

は50代をむかえた会員による介護や健康、人生設計などをテーマにした800字のエッセイコーナーです。みなさんからの投稿を募集しています。

右上腹部がキュッと痛い。

腹部の異常は私としては珍しいことだ。だから、日課になっているの生徒との30分間走はキャンセル。放課後の女子羽

球部の指導でもラケットは振らない。どうして走れなかったり、ラケットを振れないほどの痛みにさいなまれるのか。その理由は分かっている。

この一週間で全障研道支部で一人、職場で一人が癌によって逝ってしまったからだ。

一人は阿部哲美氏。六十歳。私と阿部氏は二十代の頃から全障研の活動に参加し、私が